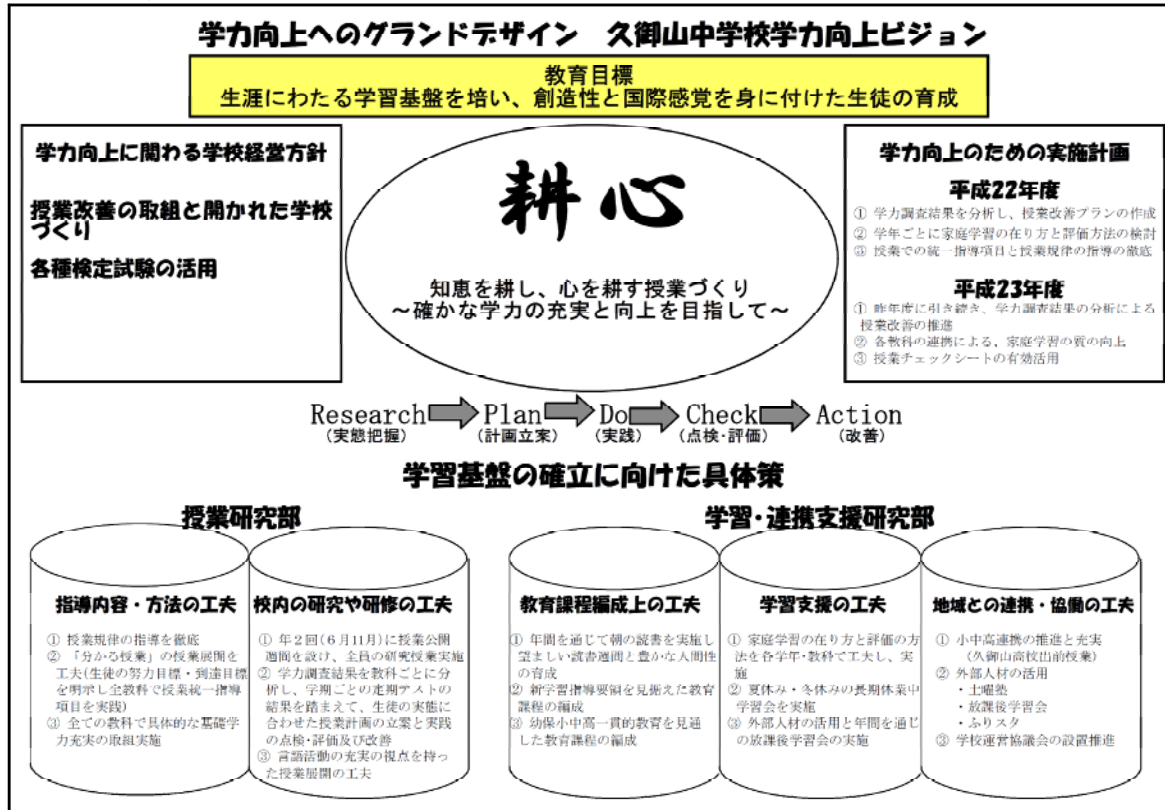


「耕心」 知恵を耕し、心を耕す授業づくり ～確かな学力の充実と向上をめざして～

久御山町立久御山中学校 校長 桐村 幸雄

1 実践研究の概要

(1) 本校の学力向上プログラム



(2) 研究主題 「耕心」 知恵を耕し、心を耕す授業づくり ～確かな学力の充実と向上をめざして～

生徒に「質の高い学力」を身につけさせるためには、学力調査を分析し、生徒の実態に合わせた授業づくりが必要である。そこで、質の高い学力の育成を目指した「魅力ある授業」づくりの実践に日々取り組んでいる。

2 実践研究の内容

(1) 学力実態の把握・分析

ア 実態の把握・分析

「京都府学力診断テスト」や「ベネッセ学力調査」等の分析

イ 本校の生徒に見られる実態

- 学力に関しては学年・教科ごとにばらつきがあるが、基礎力・応用力ともに低い課題がある。
- 学習に対して受け身である生徒が多く、問題や課題を発見し、主体的に解決していくために求められる問題解決力が低い。
- 学習に対する向上心はあるものの、学習に取り組む集中力が低く、家でその日学習したことを復習する生徒が少ないなど、学習を継続して取り組む力が低い意識調査結果が出ている。

(2) 具体的な目標設定

生徒の実態分析から生徒の学力を向上させるためには、まず教師の授業力の向上が必要であると考えた。そこで、教科の枠を超えた授業改善の取組を行い、授業と家庭学習とをリンクさせ、質の高い学力を育成することを目標とした。以下はその具体的な目標である。

ア 家庭学習の定着・充実に向けた工夫

各学年の家庭学習の取組を交流し合うなかで、効果的な家庭学習の方法をさぐる。

イ 授業と家庭学習のリンクの工夫

習得的な内容、活用的な内容を工夫しながら効果的な家庭学習の方法と自学自習の姿勢を身につけさせる。

ウ 習得型・活用型授業の工夫

研究テーマによるグループ等、様々な視点で具体的な授業改善の方法について協議を行う。

エ 授業改善プランの利用と研究授業でのチャレンジ

指導者自身の授業改善の取組の振り返りと次のチャレンジにつなげる。

(3) 質の高い学力を育成する具体的方策

全教員が授業改善プランを作成し、重点テーマに沿った実践を行い、公開授業及び校内研修会で相互に学びあい、次の実践に生かすというR→PDCAサイクルの実践に取り組んだ。次の三点は、この取組における重点項目である。

ア 各自の研究テーマに即した授業改善プランの作成とその形成的評価の工夫

(ア) 授業評価の観点を整理するために授業チェックシートを作成。

(イ) 共通の重点項目から選択した研究テーマに沿った授業改善プランを作成。

(ウ) 授業チェックシートから選択した重点評価項目に関する取組を週単位で振り返って次週の実践に生かす「実践報告書」を作成。

授業チェックシート(習得型)		授業者() 先生		評価者()	
項目	C 改善を要する状況	B おおむね満足できる状況	A 十分満足できる状況		
1	本時のねらいやめやすめが明確になっている	本時のねらいの提示が不明確であったり、授業展開がねらいと一致していない。	本時のねらいが提示され、ねらいに沿った授業展開がされている。	授業展開中に、生徒が本時のねらいを意識するよう、働きかけをおこなっている。	
2	学習展開が確立されている	私語をしたり、学習に参加していない生徒に対する指導振動ができておらず、学習集団に一体感がなっていない。	私語をしたり、学習参加に消極的な生徒に対する指導振動を適宜行い、概ね教師の意図の下に授業が展開されている。	指導者から当該生徒に対するものたけでなく、生徒同士で、積極的に学習参加するよう、注意し合っている。	
3	学ぶ意欲を高める魅力的な授業である	生徒が主体的に学習に参加する場面や興味関心を高める発問や教材提示等に乏しい。	導入場面において、生徒が興味関心を持てる教材の提示や展開の工夫が適切に設定されている。	導入のみならず、授業全般に、生徒が興味関心を持てる教材の提示や展開の工夫等がなされている。	
4	家庭学習へのアプローチがされている	本時の学習内容と家庭学習の繋がりが示されていない。	本時に習得した内容をもとに、生徒が家庭学習するための課題を提示している。	本時に習得した内容を定着させるための適切な課題とそれらを発展させる課題の両方を、具体的に指示している。	
5	ペアワークやグループでの活動など、互いに学び合う時間を確保されている	学びあう時間や場が確保されていない。	学びあう時間や場がある程度確保されている。	学びあう場面において、多くの生徒が積極的に交流している。	
6	自己評価ツールなどを用いて、本時の学習内容についての振り返りがなされている	本時の学習内容の振り返りをする時間が確保されていない。なかったり、詳細項目がねらい・内容に沿っていない。	振り返りの時間の確保がなされることとし、本時の学習内容とねらいに沿った評価項目が設定されている。	個々の振り返りがクラス全体の中で共有される機会や仕組みを伴っている。	
A	習得すべき内容(学習過程の全体)が明確にされ、学習に対する意欲が持てる	本時に習得すべき内容が精選されておらず、単元計画の中での本時の学習の位置付けが不明確である。	本時に習得すべき内容が精選され、単元計画の中での本時のねらいが明確である。	単元全体を通して、習得すべき内容が整理され明確化されている。	
B	本時の自己評価標準・判断基準が明確であり、レベル、Aレベルの両方を明示した上で挑戦させている	自己評価標準が生徒の立場から不明確であり、基準を明確に提示していない。	自己評価標準を明確に提示している。	自己評価標準と判断基準が適切に設定され、生徒が自分にあったレベルに挑戦している。	
C	本時に習得すべき学習内容のポイントが分かりやすく解説されている	学習内容のポイントが不明確であったり、解説が不十分である。	学習内容のポイントがきちんと解説されている。	学習内容のポイントが適切であり、またそれを伝えるための方法が工夫されている。	
D	習得すべき内容をパターン化し、練習する時間が確保されている	習得すべき内容を練習する時間が確保されていない。	習得すべき内容を練習する時間が確保されている。	習得のための練習時間を、授業展開中に効果的に確保している。	
E	学習した内容が理解できているかを確認する機会が確保されている	学習した内容が理解できているかを確認する機会が確保されていない。	学習した内容が理解できているかを確認する機会が確保されている。	学習した内容が理解できているかを確認する機会が確保されている上、それをおこなう方法が工夫されている。	
F	学習の振り返り、学び直しによる深化と補充の機会が保障されている	学習の振り返り、学び直しによる深化と補充の機会が保障されていない。	学習の振り返り、学び直しによる深化と補充の機会が設定されている。	学習の振り返り、学び直しによる深化と補充の機会を設定し、それぞれの学習方法に工夫が見られる。	
	授業全体を通して参考になった点				
	よりよい授業にするために改善が必要な点				

【授業チェックシート】

1学期の授業改善プラン
()科 氏名()

Reserch
(実態把握: 担当学年に与えられる授業の状況: 昨年度の実績および各種調査の分析から考えられること)

Check
(点検・評価: 1学期の授業実践の分析→取組の成果と課題)

Plan
(計画立案: 実態をふまえた具体的な授業改善プランを主体で選択した授業チェックシートの評価項目具現化の方策)

選択した評価項目	項目	記号番号	具体的な内容
共通項目			
活用型授業			
習得型授業			

<具現化の具体的な方策>
<家庭学習とのリンクの方法>

Action(改善: 2学期に向けた具体的な改善策)

選択した評価項目

項目	記号番号	具体的な内容
共通項目		
活用型授業		
習得型授業		

<具現化の具体的な方策>
<家庭学習とのリンクの方法>

Do(実践)
「1学期の授業改善プラン実践報告」

Do(2学期の実践)

1学期の授業改善プラン重点評価項目の実践状況
()科 氏名

1 選択した評価項目

項目	記号・番号	具体的な内容
共通項目		
活用型授業		
習得型授業		

2 5月第3週からの実施状況

	共通項目	習得型・活用型 授業
5月13日(水)		
5月14日(木)		
5月15日(金)		
5月16日(土)		
5月17日(日)		
5月18日(月)		
5月19日(火)		
5月20日(水)		
5月21日(木)		
5月22日(金)		
5月23日(土)		
5月24日(日)		
5月25日(月)		
5月26日(火)		
5月27日(水)		
5月28日(木)		
5月29日(金)		
5月30日(土)		
5月31日(日)		

【授業改善プラン】


【実践報告書】

イ 2回の公開授業週間を設定し、全員が公開授業を実施。

- (ア) 教科の枠を超え、研究テーマのジャンルが同じ教員同士で相互に授業を参観し授業評価を行った。(1学期)
- (イ) 教科の枠を超えた各自の選択による **テーマ別グループ研究**を実施し、相互に授業を参観し授業評価を行った。(2学期)


テーマ別グループ研究テーマ

① 授業におけるICTの利用



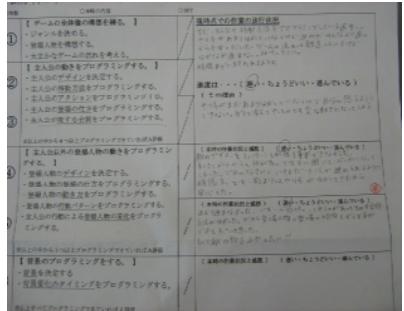
【家庭：イモの皮むき】

② 学習の振り返りと学び直しの効果的な方法



【特別支援学級：英語】

③ 効果的な「自己評価表」の利用



【技術：自己評価表】

ウ 校内研修会の持ち方の工夫

- (ア) 単なる教科内の実践交流会にとどまらず、授業改善についての新しい実践アイデアが提案できるような校内研修会になるよう、参加型協議、教科単位で協議、学年で協議などさまざまな形態を実施した。

○夏季研修会

- ・ 「家庭学習と授業の連動」という視点を入れて、教科ごとに検討した。
- ・ 各学年の家庭学習の取組の分析から「教師の家庭学習指導力」について考え、「授業改善と結びつけた家庭学習充実の取組」について話し合った。



【教科別分科会】



【各学年の家庭学習の取組の分析】



【家庭学習の取組分析の報告】

○11月研修会

- ・ 選択したテーマにより、グループ内での意見交流や研修を実施した。



【テーマ別グループ研究分科会】



【全体会：分科会の報告】



【全体会：ブレイン・ストーミングによる授業改善の取組の交流】

(イ) 次なるチャレンジの宣言

教師が自分の取組をまとめ、振り返り、次のチャレンジにつなげていけるように、校内研修会の最後に必ず「次なるチャレンジの宣言」を行っている。

授業研究・事後研修会を終えて

授業改善へのアプローチ(次なるchallengeへの決意)

教科()氏名()

3 実践研究の成果・課題 (今後の方向性)

【成果】

- ・ 研究を一人で進めていくのではなく、同じテーマの教員同士で取り組むことにより、教師の授業改善の意識向上を図ることができた。
- ・ 教科内や学年内での意見交流が増え、授業改善の方策について教員自身がさまざまな方法を模索するようになってきた。
- ・ 教科の枠を超えたグループによる相互の授業参観をもとに取組を実施しているので、同じ重点評価項目を選択していても教科の特性により異なったアプローチの方法から学ぶべき点が多かった。

【課題】

- ・ 取組の実践は着実に進められているが、生徒の変容が見られるまでには至っておらず、一層継続して取組を進める必要がある。
- ・ 授業改善と結びつけた家庭学習充実の取組を進めるとともに、学習の基盤となる基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の確立を図る。